

## 神奈川県金融経済概況（2015年3月）

### I. 概況

神奈川県の景気は、基調的には緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もとでは下げ止まっている。輸出と設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、全体として改善傾向にある。個人消費は、底堅く推移している。この間、住宅投資は、足もと改善傾向が持続している。公共投資は、基調的には堅調に推移している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

### II. 実体経済

(1) 生産： 足もとでは下げ止まっている。

- ・ 輸送機械は、国内向け乗用車が弱めの動きとなっているものの、輸出向け乗用車やトラックの好調などもあって、足もとでは下げ止まっている。
- ・ 素材関連は、建材向け素材などが弱めの動きとなっているものの、化粧品などが持ち直しており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、情報通信機械を中心とした在庫調整の動きや電子部品・デバイスにおける生産移管等の影響から弱めの動きとなっている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、円安などの効果もあって、工作機械などが堅調なことから、全体としては持ち直しつつある。

(2) 輸出： 持ち直している。

- ・ 北米向けや中東向けが増加しており、全体として持ち直している。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 14/12月短観における、14年度の設備投資計画をみると、一部では投資を減額・先送りする先もみられるものの、製造業では維持・更新投資に加え、需要増加を受けた増投資の積み増しが計画されているほか、非製造業では新拠点・新店舗の設置などが計画されており、引き続き増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善傾向にある。

- ・ 14/10-12月の完全失業率は3.1%と、遡及可能な1997年以降最低水準となった。15/1月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.05倍と、前月と同水準となったほか、14/12月の現金給与総額は前年比+0.8%となった。

(5) 個人消費： 底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、足もとでは、ブランド雑貨などが減少しているものの、高額品販売や催事などが好調であったことからほぼ前年並みとなるなど、堅調に推移している。
- ・ スーパー売上高は、一進一退の動きとなっている。
- ・ 家電販売額は、駆け込み需要の反動から幾分持ち直した後、横ばい圏内で推移している。
- ・ 新車登録台数は、新型車投入効果などから、底堅く推移している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、県内ホテル・旅館の稼働状況を見ると、高水準で推移している。

(6) 住宅投資： 足もと改善傾向が持続している。

- ・ 1月の住宅着工戸数は、前年を上回った。

(7) 公共投資： 基調的には堅調に推移している。

- ・ 1月の公共工事請負額は、前年を下回った。

### Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、中小企業向けに拡がりが見られるほか、不動産・住宅関連向けの伸びが続いており、増勢を強めている（貸出金末残前年比： 14/12月+1.0%→15/1月+1.7%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利前月差： 14/12月▲0.015%→15/1月▲0.000%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金が順調に増加していることなどから、引き続き増加している（実質預金末残前年比： 14/12月+2.8%→15/1月+3.2%）。

以 上

---

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。